

## 大高生に告ぐ！

現在、日本のみならず、世界中で新型コロナウイルス（COVID-19）が猛威を振るい、日常の安全・安心が大きく脅かされています。医療崩壊の危機が迫るとともに、人と人との接触の8割削減が求められるなど、日常生活がかつて経験したことのない状況に置かれています。そのような中、昨日、知事から発表があったように、5月末日まで県立学校の臨時休業が延長されました。生徒の皆さん、保護者の皆さんにおいても、先が予測できない状況にあり、学習の遅れが気になり、取り組みたいこともできずに戸惑いを隠せないことと思います。しかし、今、とるべき行動は、それぞれの立場でできる感染予防です。自分自身、家族、そして、社会を守るためにも、あやふやな情報に惑わされず、必要以上にネガティブにならず、平常心で、責任ある行動をとる必要があります。そして、その取組、行動は課せられた我慢すべきものではなく、一人一人が積極的に取り組んでいると捉えることが重要であると考えます。

東日本大震災の時もそうであったように、外的要因で通常の学習機会を失ってしまったときに、今ある不運を悔やんだり、恨んだりしても仕方ありません。大田原高等学校の生徒として、現実を直視し、今、何ができるか、自身の目標達成に向けて何をするかを考えてください。それを実行できた人、一瞬一瞬を懸命に生きた人は、人としての強みを必ず身につけるはずです。そして、この経験、身につけたもの、考えたことを生かして、様々な分野に存在する課題を克服し、日本を、世界を変えていってほしいと思います。

さて、現状を踏まえて、今現在をどのように過ごすのかも重要なことですが、もう一つ大切なことがあります。それは、このコロナ騒動の後のことです。

最近、二つの文章に目がとまりました。

一つは、物理学の博士号を持つパオロ・ジョルダノーというイタリア人作家の「コロナの時代の僕ら」という本です。示唆に富んだ文章であり、その中の「すべてが終わったとき、本当に僕たちは以前と全く同じ世界を再現したいのだろうか」、「コロナ後の我々は、何を守り、何を捨て、どう生きていくべきなのか」という言葉に考えさせられました。

もう一つは、ヴィヴィアン・リーチという方が、新型コロナウイルスを擬人化して書いた「新型コロナウイルスから人類への手紙」という文章です。これは、本ではありません。全文は、ネット等で閲覧できますので、確認してください。様々な危機が地球を襲っているにもかかわらず、それに対処しなかった人間。それでは、直接危害が及ぶようにウイルスという形で人間を襲った。さあ、人間よ、どうする。という手紙です。

この二つの文書からは、様々なことを考える視点を得ることができます。

今回の経験を経て、私たちはどんな社会を築き上げるべきなのか。日本の課題に限ったことで見ても、この10年の中で、東日本大震災を含めた大地震、ゲリラ豪雨、台風等による災害と熱中症を含めた異常気象、児童虐待を含めた家族の問題等が挙げられます。世界規模では、エネルギー問題、環境問題、食糧問題、少子高齢化問題と人口問題、貧困問題、戦争・紛争問題、…、そして、グローバル化が招いたウイルス感染症問題と、社会を取り巻く課題は考えると際限がありません。それらを含めて、これからの社会を、日本をどうしていくのか。そこに自分自身は、どのような分野で、どのような立場に関わっていくのか。ぜひ、時間のある、今、改めて考えてみてはどうでしょうか。もちろん、正解は一つではありません。一人の大田原高等学校の生徒として、一人の日本人として、そして、一人の人間として、考えていくべき問題です。

目先の問題に右往左往することなく、今、取り組むべきこと、考えるべきことにしっかりと取り組みましょう。振り返ったときに、今の取組、努力に感謝できる日が来るよう、がんばってください。日常の学校生活が、一日も早く戻ることを心から願っています。

令和2年5月1日  
栃木県立大田原高等学校長 植木 淳